

# 北ア・蝶ヶ岳ー常念岳

1999年4月29日ー5月1日

山スキーをはかないゴールデンウィーク。何年前の事になろうか、記録を出して調べてみた。

'81年・八方尾根(第3ケルン付近)、'82年・千畳敷カール(稜線)、'83年・立山(平蔵谷他)ここまではゲレンデスキーで滑っている。いずれもゴールデンウィークだ。必要に応じて登山靴を持っていつている。そしてこの立山の剣沢で、シールで登る山スキーと初めて巡り合う。この年より単独となる。

'84年以降・山スキーを購入し、但馬の山を滑りまくる。ルートファインディングの能力を養い、どのような雪質でも、どんなに狭い所でも滑れる山スキーを目指す。

'85年辻川氏と出会い、より高い

山スキーのパートナーとなる。

頂点を、ヨーロッパアルプスオートルートとし、'86年5月、日本人12人のパーティーで挑んだが、悪天・パーティーの個人能力の差などの障害のため30パーセントも走破出来ず終わる。

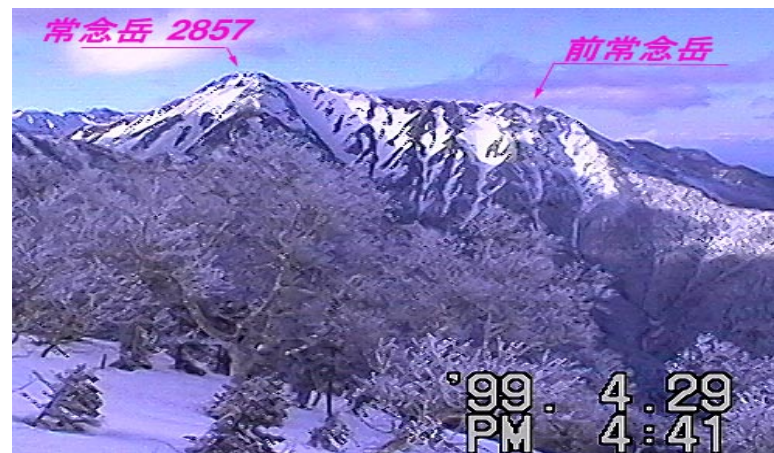
夢敗れた頃、日本のオートルートを知る。いろいろ資料を手に入れるにつれ、「これど我が山スキーの頂

点」の気持ちが固まる。

北アルプスを滑りまくり'93年・辻川氏と日本のオートルートを走破。

そして今日にいたるが、いまだに山スキーをやっているのは、けんちゃんとの出会い・他の仲間との出会いであるに違いない。

少し寂しいのは、辻川氏の体調



不調だ。

ずいぶん横道にそれてしまったが、この間ゴールドウィークは、期間をずらしても、すべて山スキーをやっている。

1999年のゴールドウィークは、私の腰のトラブルで、ハードな山スキーは辞めにして、登山とする。

メンバーは、山スキーがしたく、又もっと長く入ったかった、元気一杯の賢ちゃん。

かみさんの出産を一月後に控え、2泊までの条件付きで参加した山の魅力に若くして取り付かれてしまった彰君。

それに私の3人パーティーになった。

コースは、山スキーヤーの居ない所がかつ私の行っていない所を条件にすると、蝶・常念になった。槍・

穂の展望台である。私にとって久しぶりの遊びで、ましてそれが雪の北アルプスと有っては、数日前からわくわく気分であった。ただ腰の調子が不安であった。少しは潰れる事は十分承知の上であった。

29日 3時、けんちゃんのハイエースで、阪神一名神一中央一長野道を経て蝶ヶ岳の登山口である三股に10時到着。空は雲に覆われ雪が降り出す。天気予報の「回復」を期待し、10時30分ヤッケを着込んで出発。

登山道は、うっすらと白くなり木々の霧氷が綺麗だ。2000メートル辺りからは、雪の斜面となる。景色は、樹林帯のため得れない。

14時30分、天気は順調に回復しているようで青空



が出てきた。霧氷の合間から常念が、顔を出す。皆季節はずれの新雪と霧氷にご機嫌だ。しかしその後、雪の急斜面にあえいでしまう。時々雪を踏み抜き、体力を消耗する。やがて踏ん張り時、腰に鈍痛が走り出す。これ以上悪化しないよう腰をかばい、皆のペースにとついてもついていけないがガンバル。やがて稜線に出る。

ガスや雲が強風に飛び交うなか、槍・穂の絶景が我らを迎えてくれる。彰君は、初めての槍・穂をこの様に劇的に見、感動している。彼にとってこの槍・穂が今後素晴らしい充実の舞台に成る事は、間違いなからう。けんちゃんにとっては、西穂から奥穂・北穂・槍の思い出の縦走路で懐かしいことだろう。

私にしては、色々あるが、3年前辻川・西川の3人で槍沢から横尾本谷へ滑り込んだコースが思い出され



田中彰 25才



メンバー  
加藤一雄 51才



大塚賢一 43才

る。マイナス8度の寒い中、蝶ヶ岳ヒュッテに入り込む。山ケイに出ていた綺麗な女主人は不在で少し残念。

30日

4時50分、マイナス18度の厳しい研ぎ澄まされた空間にオレンジ色に輝く太陽が顔を出す。そして槍・穂の連邦が赤く染まる。

皆思い思いにこの一時を過ごしている。

私は、この光を体一杯に受け元気になる。腰もそう悪化していないが、皆、私の腰を気使ってくれ感謝する次第。と同時に残念な気持ちで一杯だ。

7時、常念へ向け出発する。

今日の行程は、ゆっくりしており、景も抜群で撮影会で忙しい。

いくつかの穏やかなアップダウンを繰り返し、常念と

の最低鞍部にくる。この辺りの稜線は、アオモリトドマツとダケカンバの樹林帯で実に穏やかで素晴らしい。

これから常念にかけては大きなアップダウンの繰り返しとなる。

大変厳しいそんな中、カモシカが我らの目前に姿を見せて、気持ちをほぐしてくれる。そして最後のおおのぼりの後、常念山頂に辿り着く。

何と我らを迎えてくれたのは、未だ数百メートル上空で飛行するハングライダーだった。

山頂でゆっくりくつろいだ後、常念小屋へ向け下ってゆく。15時30分到着し、ティーブレイク後16時、山小屋にチェックインする。この山小屋は、なかなか立

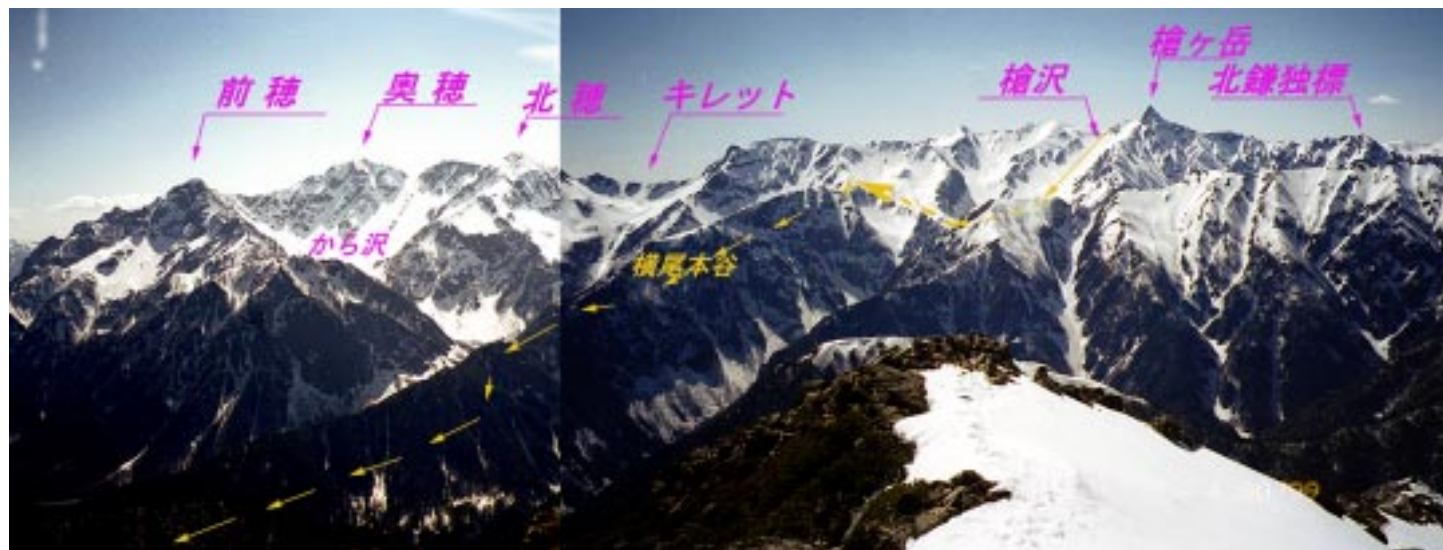


派で気に入ってしまう。部屋は、55歳程度の茨城県のご夫婦と同じになり、いろいろな話で盛り上がる。

1日

7時出発。今朝も快晴でご来光を見る事が出来た。今日は、常念を八合目まで登り直し前常念を経て三つ股へ下る行程である。

朝一番とあって、急な登りもさほど苦にならず前常念分岐までくる。これより前常念に続く稜線が痩せ尾根で、雪庇と青い空の空間に我らの姿が浮び実に素晴らしい。





稜線からの雪の斜面のルートをおわえ滑降コースを想定している。皆一人前の山スキーヤーになったものだ。前常念で雪の峰峰と別れを惜しみ、急なガレ場を下る。

この斜面を、急なアイスバーンを想定していたがまったく雪がついておらず事無く通過。

やがて樹林帯となり段々雪も少なくなり下界に降りてくる。下界は夏だ。

12時20分三股到着し、今回の登山も無事終わった。5月は、白山や、中央アルプスの山スキー、又、雪山登山がいいのだが、私は、腰の療養に励み、7月20日の4連休をターゲットに、北アルプスのテント山行を目指します。まあそれまでに日本海シーカヤックが出来ますが。

いやいや、屋久島、真剣に考えないと行けなくなるかも。

## 下山

